

海外研修レポート

1223023 櫻井拓郎

・ホストファミリー

まず、はじめに、私が今回お世話になったホストファミリーとのことについて話していきます。私のホストファミリーは金の輸出を仕事としているエドウィンと週に2回働きに行っているメアリの二人の家でした、二人とも61歳と思えない風貌でした。

ホストファミリーさきにつくと、個人の部屋を案内してくれました。どちらの部屋も7畳ほどの広さで、部屋には、ダブルサイズのベッドもありとても快適な空間でした、室内には天井に大きな扇風機のようなものがついていて気温の高い日も涼しく過ごすことができました。そして、日も暮れ、私が一番不安に思っていた食事の時間が来ました、初めての食事は晩御飯でした。献立は、ラムとビーフのステーキでした、オーストラリアの牛肉は日本で売られている肉となんら変わらなく、とてもおいしかったです。ラムに気は牛肉より歯ごたえがありましたが味付けされていて、食事について不安に思っていたことが嘘かのようによく食べられていました。次の日の朝、朝食の制度について教えてもらいました、朝食は、キッチンの上に置いてある食パンにハム、チーズを挟んで各自で作り食べるようにとのことでした。そのときに昼食も自分で作るということを教えてもらいました。昼食は朝と違い、ポテトチップスと果物をビニール袋に入れて持っていくと教えてもらいました。約三週間朝昼を食パンで過ごすと思パンに少し飽きました。

私のホストファミリーは週末、各自で遊んでおいでといったスタンスでした、また平日も前もって伝えておけば多少遅くなっても怒られることは一度もありませんでした。

雑談ですが、日本から私は色々なものを持っていきました。日本食ではお米、カレー粉、すしの子、わさび、チョコレート、インスタントラーメン、等々、日本からのお土産はひな祭りにちなんで、ひな祭りの日本画と漆のお箸を持っていきました。喜んでくれていたのかは、わからなかったですが、部屋に飾ってくれていました。しかしホームステイを受け入れている家庭にはすでにお箸を持っていることが多いのだなと感じました。またサランラップをプレゼントしたのですが、しっかり開け方を教えないといけないと感じました。すべて日本語で書かれている物は開け口の文字すらホストファミリーはわからないので、サランラップを横からあけてしまっていました。

・学校生活

つぎに、学校生活について話していきます。まず初日に7つほどのグループに分けられました。そして次の日から授業に参加という形でした。授業自体は、午前がコミュニケーションで午後が文法といった感じでした、クラスメイトにはクエート人、サウジアラビア人、

韓国人と多国から集まっていました。初日は授業の内容が簡単すぎてクラスを変えたいと思うほどでした、しかし授業自体は日に日にむずかしくなるとのことだったのでクラスは変えませんでした。午前中はイギリス出身の先生で英語の発音がとてもきれいな人でした、アメリカ英語とイギリス英語の違いなども教えてくださり、とてもタメになりました。午後は文法でした内容をすべて英語で学ぶので自然と英語に慣れることができました。学校の広さは世田谷キャンパスの何倍もの広さでした。学校内で衝撃を受けたのはトイレでした、立ってするトイレが日本のようにひとつひとつに分かれておらず壁に向かってトイレをするといった感じでおどろきました。学校が終わるとバス停でバスを待つのですが、私の乗りたいバスはほとんど遅れてくるためにバス停でとても暇をしていました。そこで、バスを待っている間に案内係のアンドリューというオーストラリア人と仲良くなりました。三週間過ごしてそのアンドリューが一番英語を話すスピードが速かったです。でも彼と話すことで学校では習わない俗語などを学ぶことができました、現地だからこそ学ぶことができる俗語などを教えてもらえたことはとても価値のある経験になったと感じます。

・オーストラリアの雰囲気

まず初めてオーストラリアについて感じたことは日差しが日本とは全く違い強いということです。そしてオーストラリアの人の優しさにもだんだんと感じていきました、たとえば、バスに乗っているときに、突然バスが停留所で左に傾いたので何が起こったんだろうと驚いていたら、ベビーカーに赤ちゃんを乗せた人が停留所からバスに乗り込もうとしていることに気付いた運転手さんが、乗りやすいように傾けていたことには感動をしました。市内で思ったことは、歩行者用の信号が変わる時間がとても短いということ本当に5秒で変わります。また市内は毎週金曜日がお祭り状態です。普段は特に何もない大広間みたいになっているのですが、金曜日の夜になると、屋台が20店舗以上展開されてとても賑わっています。屋台の中には、多国の食べ物が販売されています。日本のたこ焼きも屋台を出していました。私はスペイン料理の屋台でご飯を買いました。値段は13ドルと高かったのですが、味は日本食顔負けで美味しかったです。食について、マクドナルドは安定感のあるおいしさでした。また、現地の人はお寿司が好きな人が多いです、しかし日本で食べているお寿司とは異なり海苔巻が現地では主流のお寿司と認識されています。3月3日にホストファミリーに日本の主流のシャリの上にネタを乗せるお寿司を作りました、サーモンなどの現地でもなじみのある魚はおいしいと食べてくれていました。一番人気のあったものはツナマヨネーズの手巻き寿司でした。

・研修を終えて

三週間と短い期間でしたが、振り返ってみると多くの経験をさせてもらったと実感しました。また英語というものがほんとに人と人の壁をなくし対等に話ができる最高の言葉だと学びました。今後英語を勉強することへの意気込みが変わりました。



※ホストファミリー宅



※作ったお寿司



※金曜日夜のパースシティ



※ブラックスワン